

12.17

在いわきジャーナリストが見た
分断された「福島」

◎日時
2017年12月17日(日)
13:30開場 14:00開会
16:30終了予定 懇親会もあります
◎会場

本郷文化フォーラム
東京都文京区本郷3-29-10飯島ビル1階
TEL.03-3818-6671
地下鉄丸の内線・大江戸線
「本郷三丁目」駅下車5分
2017.10に新事務所に移転しました



ゲスト「日々の新聞」編集人

安庵昌弘氏

ありゅう・まさひろ

1953年福島県いわき市生まれ。1977年、地域夕刊紙を発行するいわき民報社入社。1999年同社政治文化部長。同年『白球のクロニクル71年夏の記憶』で第7回JLNAブロンズ賞特別賞受賞。2001年『天平—ある詩人の生涯』で第15回報徳出版文化賞優秀賞などを受賞。2002年いわき民報社を退社、2003年いわきを見つめるタブロイド判の隔週刊紙「日々の新聞」を創刊、編集人を務める。
<http://www.hibinoshinbun.com/>



震災・津波・原発事故からはや7年。いま福島はどうなっているのか。

掛け声こそ高いものの、遅々として進まぬ復興。放射能汚染はなくなったわけではないのに、ふるさとへの帰還を強制される原発被災者。一方で、住居の移転・新築もままならない津波被災者がいます。

国が地域住民を見捨てる<棄民>政策が進み、地域にはさまざまな形で<分断>が持ち込まれているともいいます。

いわきに生まれ、地域紙の編集者として一貫して、いわきの生活と文化を見つめてきた安庵昌弘氏。「日々の新聞」の創刊の辞には「まず、現場に立ってみる。耳を澄まし、同じ時代を生きる人たちの話をしっかり聞くことそして、その日々を見つめ、伝えること」と、その決意を記しました。

外にいてはなかなかつかめない被災地の実状を、地域在住ジャーナリストの視点から語っていただき、今後の課題について討議を深めます。

◎参加費 1,000円

◎主催 NPO法人ふくしま支援・人と文化ネットワーク
<http://www.support-fukushima.net/>
TEL:090-2171-4971

◎問合わせ・予約
会場の都合がありますので、できるだけメールまたはFAXで予約を!
メール:p-c-netw311@nifty.com
FAX:045-392-8043